

地域をつむぐ「縁結び人」養成塾

集合研修 1 日目

講義「地域のお宝発見！ ～童話の村 秋祭り～」

講師 村上眞喜子氏（特定非営利活動法人りんりん 顧問）

2012 年 8 月 20 日

松下さんが先ほど「キーマンがいる（必要）」ということばで締めくくられた。そのことばを受ける関係で、先に結論をお伝えしておきたい。

私は「キーパーソンを見つけよう。」「地元で根を張る。」ということをお伝えしたい。

#### ■人と土地をつなぐ

りんりんの活動拠点、半田市岩滑区。りんりんはそのど真ん中にある。新美南吉が生まれたところだ。来年は生誕 100 周年。

りんりんの活動拠点になっている岩滑地区のお話をしたい。37 年前、愛知県のモデルコミュニティ地区の指定を受け、その後表彰を受けた。その岩滑地区に 99 年にりんりんは引っ越してきた。その後手狭になったので今の土地に引っ越した。

縁結びは人と人をつなぐことも大事だが、人と土地をつなぐことも大事だと私は思っている。りんりんの近くにある川は今でもうなぎがとれる。南吉さんの生家がある。南吉記念館がある。北側には黒鍛街道がある。亀崎から常滑まで通る道路。京都から江戸まで出稼ぎに行く人が通っていた大切な道だった。新しい場所を探していたときにたまたま出会った。私とこの場所の出会いがよかった。なんて、あつたかくて人が寄ってくる土地だろう。そう思ってこの地に建てた。彼岸花が咲くことを知ったことは後からだった。

#### ■りんりん

りんりんの出会いは佐々木さんとの出会い。1994 年市民互助型団体を立ち上げた。2000 年から介護保険の事業を始めた。今年の 3 月では約 1 億 4000 万の事業規模。

今では NPO で 1 億なんていうのは珍しくなくなったけれど。

りんりんのデイサービス 2006 年からスタート。さをり織りはデイサービスの利用者さんで好評。放課後児童クラブは「ぜひ学童保育をやってほしい」という声に答えたもの。そのとなりに「りんりん茶屋」。彼岸花が美しく見える窓がある。

#### ■秋祭りをはじめようとしたきっかけ

最初から童話の村秋祭りを始めようと思った訳ではない。りんりんの理事長をつとめていたときに、西の窓から外を眺めると、行列をつくって彼岸花を見に来ている人を見た。

この人たちが休む場所が会ったらいいのにな、ここに道の駅のようなものがあればいいのになと、ふと思ったのがきっかけ。

2005 年の 9 月、地元のパン屋「シャンポール」さんがテントでおもてなししていた。それを見て、こういうことができたらいいいのにな、と。翌年商工会の女性会に呼びかけてテントでおもてなしするように

なった。07年、観光協会の「道の駅構想」に出会う。同じようなことを思っている人がいるな、と思ってすぐ観光協会に声をかけてみた。道の駅を考える勉強会を開催。道の駅をつくるにも実績がいるということで、童話の村秋祭りを開催することになった。

りんりんさんのヘルパーさんもいつかはヘルパーができなくなってしまうだろう。そのときに縁が切れてしまうのではなくて、道の駅の仕事が、ヘルパー後の新しい仕事とできるのでは。介護予防にもなる。そんな想いもあった。

#### ■地元とのつながり

榊原幸宏さん（矢勝川の環境を守る会）。土手の散歩に出かけるといつも声をかけてくれた。聞いてみると、元区長さん、民生委員もしていた。この人にりんりんの理事をお願いした。そのつながりで、秋祭りの実行委員長もこの方に。

岩滑地域に八幡社があった。これを修復する必要があった。榊原さんからりんりんへ寄付のお願いがあった。5000円くらいでどうでしょうか？とこたえたら、もう一声、と。土地の他の方々は？ときくと10万くらいとの返答。じゃ、5万円。と寄付をすると、区長さん3人がお礼に来てくれた。あとから見てみると、りんりんは上位寄付者10人に入っていた。

ちょっとだまされたかな？とも思ったが、結果として寄付者のりんりんの知名度が行き渡った。地元を根を張れた。お祭りの寄付や区費は、毎年出している。

NPOが地元へ寄付を出すという感覚はなかったが、地元へ根を下ろす上では大事なこと。だからこういう経緯があったということをお話ししたいと思った。

森さん（元岩滑区長）、地域の信頼が厚い方。りんりんの監事交代のとき、森さんをお願いした。そのときに、はいはいとは言わず、総会の資料、定款を見せてください、幹事の責任はどこまでですか、と確認した上で引き受けてくれた。

岩滑の人たち、元農家の人が多いと思うけれど、農村の地味ながら堅実な人柄。それがとても過ごしやすさを感じている。地縁団体とNPOは折り合わないというのが行政の課題となっているそうだが、そういうものをいっさい持たずに受け入れてもらっている。

とはいえ地元が37年間かけて培ってきたものの上に成り立っているのだということも頭に入れておく必要はある。

#### ■積み重ねることが大切

理事長を交代して3ヶ月。みなさんは現場で四苦八苦していることと思う。（私も）日々の活動、毎月の収入、一年間の決算。いつも必死だった。けれど、団体の、組織のトップから離れてみて思うことがある。これをお伝えしたい。

星野道夫さん（写真家・探検家・詩人）。今から17年前にこんなことをいっていた。「私たちはすごい時代に生きている。環境汚染・・・などいろいろな問題がある。一つの正しいこたえなどはじめからないのだ。」

暑い中きたみなさんは、松下さんや私から何か答えをもらおうとおもってきているかもしれない。けれど、答えはないと思う。「よりよい答えを探して、旅をしている途上なのかもしれない」松下さんも行っているが、ingということなのかも。

「その日その日の決断が、新しいことを展開させた。バスに乗り遅れることで全く違う出会いが待っていること。」

私が組織から離れて、社会について考えてみたこと。松下さんもいっていたが、個人から、家族、社会とつながっている。焦らずに積み重ねていくしかないのだろうと思う。

秋祭りは、今は12万人の観光客が訪れている。

花嫁行列もやった。1回目は模擬の花嫁花婿だったけれど、2回目は本当の花嫁行列。企画された本人も去年結婚されて、本当の行列になった。これもとてもうれしかった。

## ■NPOと地域や行政との協働

「キーパーソンを見つけよう」それが私のキーワード。温度差がみなさん違う。キーパーソンを見つけるのがヒントだと思う。

よその、ばかもの、若者。ばかもの＝異色のひと。前回パネリストで参加された神谷さん。異色の方だけど、それをずっと貫くと異色も特徴になるのでは。

童話の村、秋祭り。自然発生的に人が集まってきた。来るものを拒まず、参加している。目的は皆違う。でも来てほしい、楽しかったという想いをもって帰ってほしいという想いは共通。この想いを持って、それぞれのできることをしている。

りんりんでは、秋祭りでうどんと珈琲を出している。ぜひ一度おいでください。

手弁当で活動を始めている。活動資金はほとんどない。何事も続けて初めて認められる世の中じゃないかなと思う。

新婚さんいらっしゃい、の美術を40年続けてきた國嶋芳子さんの話。（新聞記事より）

「経験を積まないと話を聞いてもらえない。早く年を取りたいとずっと思ってきました」行政と対等にするのは、難しいこと。実績を積み重ねて、初めて聞いてもらえる。自分たちでしっかりと実績づくりをすること、大事なことだと思う。

最後に、繰り返しになるけれど、キーパーソンを見つけよう。地元でそういう人を探すこと。そしてしっかり地元に根をはること。